

# 聖×悪魔 《ホーリー×デヴィル》

249369511

ここはデュラノス城下町。草原には、子供たちが無邪気に遊ぶ声が聞こえる。

そんな中、デュラノス城の食堂では、口論が行われている。

「もうすぐじゃ...もうすぐ、ヤツらが攻めてくる...！」

「ナニってんだジイサン？攻めてくるワケねーだろーが！」

「いや、本当じゃぞ！ワシは364歳。今までに2度も魔王軍の進撃を体験のじゃぞ！？」

「はいはい、まーた始まった...オルノス仙人さんよ！んなコトってないで、まず自分のコトを  
考えるよ。もう先もないしな」

こうして男は、仲間と笑いながら去って行った。

「エルド...なぜ分かってくれない？」

オルノス仙人は、こうつぶやいた。

この城下町には、100年に一度、ヴァルクライナ魔王軍が攻めてくるといふ言い伝えがある。

しかし、その事を信じる者は、ほとんどいない。

それもムリはない。それをこの町で実際に体験したのは、オルノス仙人ただ一人だった。

しかし、その事を本気信じる3人の少年たちがいた。それは、グレイヴ・ボルティーノと、グラン  
・バーニルドと、カイザー・ヴィ・グラストガイアである。

グレイヴは雷、グランは炎、そしてカイザーは闇の、それぞれ強力な魔力を持っている。

その力を、ヴァルクライナ魔王軍の撃退に貢献しようと、皆が遊んでいる間も、彼らは休まず修  
行をしていた。

そんな中、城下町に大きな鐘の音が鳴り響いた。そして、下級兵士が、こう叫んだ。

「一伝令！魔王軍が...ヴァルクライナ魔王軍が、攻めて来ました！」

魔王軍の存在を信じず怠っていた兵士たちは、もはや混沌だった。

今、闘いが始まった...！

## 魔王軍との力の差

---

オルノス仙人は、

「やはり来たか...ワシも、魔力を貯めなければ！」

とって、瞑想したまま光に包まれて、動きがとまった。

「ぜっ...全軍、かかれえ...！」

国王は、頼りない声で叫んだ。兵士たちも、混乱していた。

まず門をくぐって来たのは、小さな翼で飛ぶ、下位悪魔たちだった。それぞれの手には、長く、鋭い槍をもっていた。それに、歩行兵たちが怯えながら、立ち向かって行った。しかし、勇敢な部隊長は叫んだ。

「恐るな！しょせん下位悪魔だ！」

皆、ほんの少し、安心した表情を見せた。

部隊長が一匹の悪魔に斬りかかったそのとき、心臓を悪魔のヤリに突き抜かれた。

それを見た兵士たちは、もう身体を動かすことは愚か、もはやなにも考えることが出来なかった。

オレたちの部隊長が、リーダーが死んだ。

もう闘う覚悟は、完全になくなっていた。しかし、勇敢な者は、全力で戦った。しかし、その者たちは、皆死んでいった。もう失望して、自殺する兵士も多数いた。やがて、歩行兵団は全滅した...

今のところ、一匹も悪魔を討伐できていない。

続いて、騎馬兵団が悪魔に立ち向かう。

騎馬兵団は、魔力は持たないが、そこそこの戦闘力はある。

「コイツラ、ドウスル」

「アソンデヤルカ」

「イヤ、ヌルい。ジャマダカラツブスゾ」

「ワカッタ」

下位悪魔は下級な階級で頭が悪く、あまり言葉を上手く喋れていない。

騎馬兵団は、闘う覚悟を失くしていない。流石は騎馬兵団。しかし、だからといって、勝つとは限らない。歩行兵団と同じように、全滅した。

国王は、震えた声で叫んだ。

「け...けちらしてやれ！上級兵士たちよ、悪魔を...倒してくれ...」

上級兵士たちは、ある程度の魔力を持つ。本来、上級兵士は、魔将(悪魔階級の下位悪魔、上位悪魔、魔将、魔王、魔神のうち、上から三番目の階級。この物語では、魔王は悪魔の血を引く者、魔神は魔王の化身になる)に対抗するための兵団だった。

しかし今は、そんなことは気にしてられない。国王は出撃の命令をくださった！

リザドルゼ部隊長が、天に手を向け、叫んだ。

「聖雷《ホーリー・サンダー》！」

すると、美しい幾多もの稲妻が悪魔に向かって落ちた。

悪魔は全員それに直撃した。

これはかなり強力な魔法だ。

「ジンルイニモ、コンナヤツガイタトハ...」

「キニスルナ、オレタチハカイアクマ。ソンナモノダロウ」

こうして、下位悪魔を倒した。

「この調子でせめるぞ！」

「おう！」

とはいえ、リザドルゼ部隊長は、身体に大きなダメージを背負った。

「部隊長！あまりムリしないで、下さい！」

とい、勇敢な兵士は言った。

そして、上位悪魔との闘いが始まった。

## 本当の恐怖

---

「下位悪魔を倒せたのだ！コイツらも殺れるだろー！」

勇敢な兵士は言った。

リザドルゼ部隊長も立ち上がった。

「お前らに任せられるかよ！」

「部隊長ってば。」

「冗談はここまでだ。行くぞー！」

「オオー！！」

まずは全軍で、王国の守護龍・デュラノスドラグーンの魔力を引き出した。

召喚することは、ほぼ不可能といえるほどの力を持つ。

しかし、魔力を引き出すくらいは、上級兵士の可能だ。

「龍・流星・輝《ドラゴン・メテオ・スパーク》！」

これは、守護龍の魔力を駆使するが、技の使用者により威力が異なる魔術。使用者はもちろん上級兵士たち。そんな攻撃、上位悪魔にはほぼ無意味だった。

「今度は、こっちの番だ。」

上位悪魔のリーダーは、魔法陣を描いた。

「獄焰《ヘル・フレイム》」

と叫んだ。すると、魔法陣の中心から、炎が現れた。

「ディフェンスシールド！」

これは、守備魔力の中ではかなりレベルが低い。

しかし兵士たちは、全力でシールドを作り、身を守った。

だが、そんなシールドは一瞬で破られ、兵士たちは地獄の焰に焼き尽くされた。

上位悪魔が城内に入ろうとした。

しかしその時、

「いでよ！全能雷神《ゼウス》！」

オルノス仙人の声がした。

と同時に、ゼウスが現れその雷剣で、悪魔達を一瞬にして全滅させた。

そう、さっきの瞑想で、魔力を貯めていたのである。

ひとまず闘いは終わった。

しかし、本当にただ「終わった」だけだった。

城下町全体は、メチャメチャに破壊されていた。進軍してきた魔将の仕業だろう。

ゼウスによって全て撃退した、とはいえ、あの魔将たちが逃げ切れないワケがない。

それと、町には沢山の人の死体が転がっていた。

避難し切れたのは、5分の3程度の人口だけであった…。